

# 普及センター活動報告

(報告者：丹後農業改良普及センター 大原副主査)

タイトル	京都における農業の未来を皆で考えるFuture Design (第2回)に参加しました (主催：京都府気候変動適応センター※)	
施策名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京 都 府 総 合 計 画</li> <li>・地 域 振 興 計 画</li> <li>・京都府農林水産ビジョン</li> <li>・条例、指針、計画等</li> <li>・普 及 計 画 課 題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しなやかで災害に強い地域</li> <li>・住み続けることができる安心・安全な地域づくり</li> <li>・人と資源の活用で、持続可能な農山漁村コミュニティを創る</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>

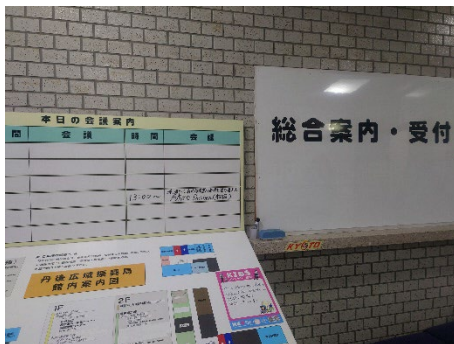
**【要 旨】** 京都府の農業に関わる、多様な立場の関係者（農業者・学識者・行政関係者）が一堂に会し、2023年の農業の現状を2053年に生きる未来人の視点で振り返り、将来に向けて農業分野で取り組むべき内容について議論を行いました。

## 【概 要】

- 1 日 時 令和5年12月12日（火）13時30分～17時
- 2 場 所 丹後広域振興局峰山庁舎第4会議室
- 3 出席者 農業者：2名、京都気候変動適応センター：2名、学識者（京都大学、三重大学）：2名、行政関係者（与謝野町役場、丹後普及セ）：2名
- 4 内 容 参加者8名が2班に分かれ、2053年を生きる未来人になった想定で過去（2023年）に取り組むべきであった課題（高温対策等）を抽出し、意見交換を行いました。
- 5 参加者の声、成果、今後の方向など

学識者から「文化的側面から見て取り組むべき課題」について提起がある等、所属が異なる者同士ならではの意見交流が行われ、農業者からは「技術革新のみならず、地域の慣習の優れた部分に注目することも重要だと感じられた」等の感想が聞かれました。普及センターでは今後も普及指導機関の立場で、府内農業の未来を考える協議に参画する予定です。

※京都気候変動適応センターは、京都気候変動適応センター設置に関する協定に基づき、総合地球環境学研究所、京都市及び京都府が設立した組織（府の窓口は脱炭素社会推進課）



第2回：北部会場の参加者